

学校法人中村学園 中村学園女子高等学校WWL成果報告

2023/2/27

学校法人中村学園 松本
中村学園女子高等学校 西岡



01

本学のWWL事業状況について

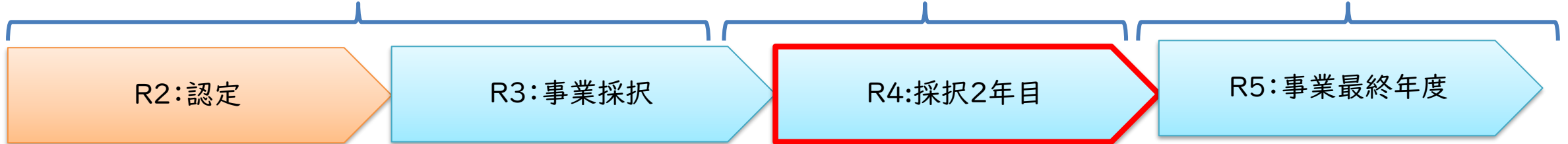
■ 事業の状況について

- 4力年の事業運営（認定3年目／採択2年目）

Outbreak期

Withコロナ期

Afterコロナ期



R2:認定

R3:事業採択

R4:採択2年目

R5:事業最終年度

- コロナ流行による学校の体制整備
- 急な学年閉鎖等
- 先の見えない活動自粛
→学校のオンライン化の整備

- デルタ株等による再拡大
- 教育を止めない対策の拡大
- オンラインの有効活用
→海外とのオンライン交流

- オミクロン株による流行
- ハイブリットによる教育推進
- ICTのより効果のある活用方法
→ハイブリッドによる可能性の拡大

- 5類への変更予定
- デジタルとアナログの共存
- 新たな学習環境の構築
→個別最適等今後の発展の基盤作り

- 全国的なオンライン化推進
- ネットワーク設備の整備
- 先の見えない活動自粛
→学校のオンライン化の整備

- ハイブリット活動の開始
- ネットワーク設備の拡充
- 想定外の自粛長期化
→オンライン対応のノウハウ構築

- ハイブリットによる教育推進
- ICTのより効果のある活用方法
- 対面とオンラインの効果検証
→ハイブリッドによる可能性の拡大

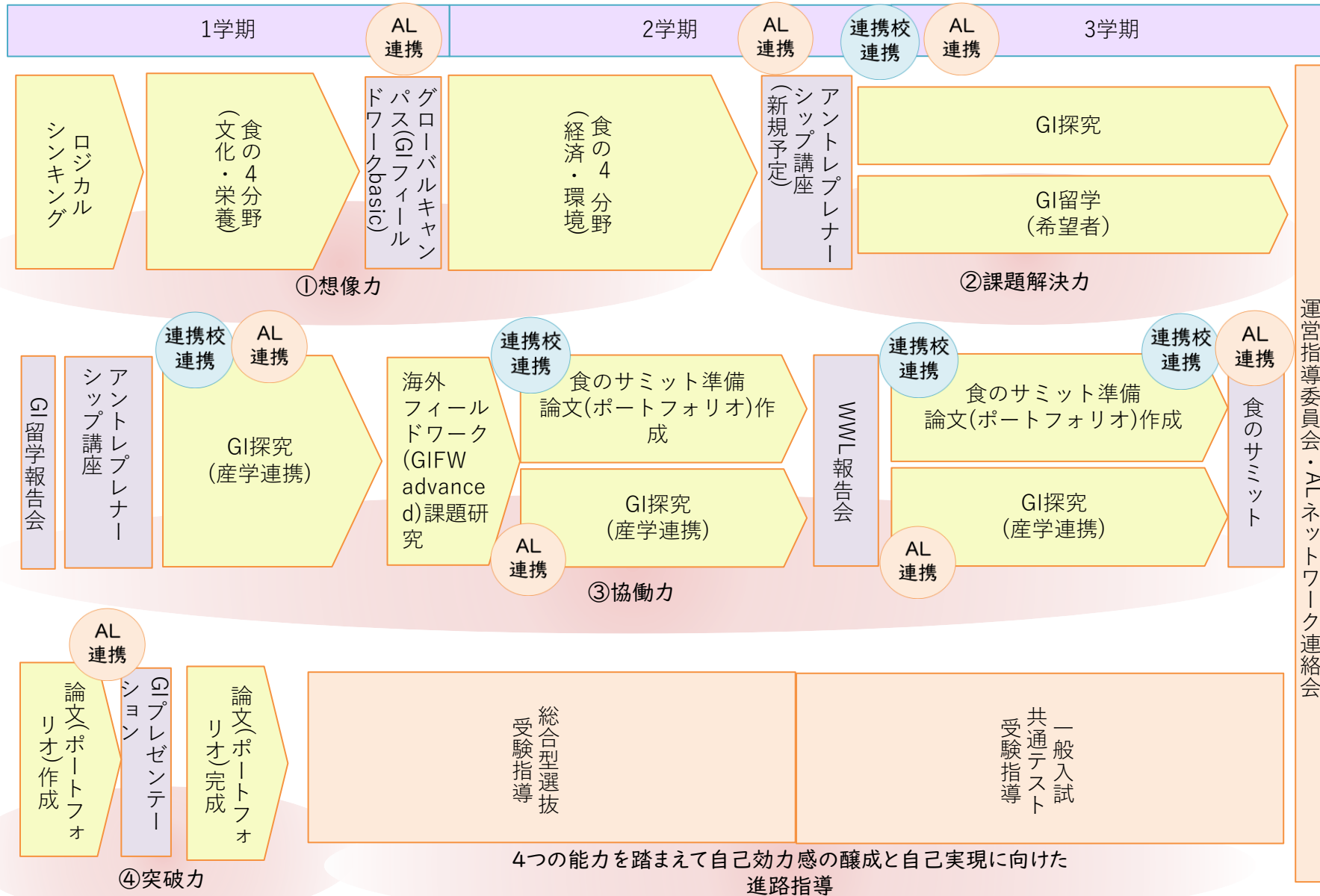
- 個別最適化に向けたデジタル活用
- 連携校との新たな連携関係構築
- 海外との取り組みの深化
→共同授業の機会拡大



環境

拠点校
取り組み

■事業運営スキーム



目的・ゴール

【目的】
身近な「食」を通じて、社会に関わる知識を深める。また、課題感や論理的に物事を把握する能力を高めることで、自身が取り組む「探究活動」に向けた能力開発を実施し、今後のWWLの基礎を身に着ける。

【ゴール】
ロジカルシンキングやアントレプレナーシップで、マインドセットと能力開発を実施する、また食の4分野を通じて今後の活動に必要な知識を深め、探究活動の準備を進める。

【目的】
テーマに関する課題を発見し探究活動を進めるとともに、解決策を導く。その際、個人の活動にとどまらず、チーム内での役割を自覚し、多様性を受容し協働する力を身に着ける。

【ゴール】
海外研修や国際会議を通じて、連携校を含めた周囲と協働し、課題解決策を提示する。

【目的】
これまでに培った想像力、課題解決力、協働力を最大限に活用し、探究の研究成果をアウトプットする。また、それを通じて自己効力感を醸成し、今後の社会において活躍する素養を身に着ける。

【ゴール】
3年間の集大成としてのポートフォリオを完成させる。

02

探究学習の高度化、自律化に向けて 意識していること

探究学習の高度化、自律化に向けて意識していること

■ WWL事業の中心であるGIクラスの探究

- ・ 食の4領域(社会文化、栄養、経済、環境)を学ぶ(1年)
- ・ 「食のサミット」で連携校と食の問題の提言書を策定(2年)
- ・ 集大成としての課題論文作成(3年)



【問題点、改善が必要な点】

① 食の問題について、**身近なところから地球規模に関心を広げる**アプローチ

- ▷ 課題を「自分ごと化」して捉える力を身に着ける
- ▷ 地域(校区、自治体)の課題を考える機会を設ける
- ▷ 事業協働機関(中村学園大学等)の教員による、講座の実施機会を増やす

② 「食のサミット」の宣言内容について、**継続的な実践**

- ▷ 提言内容の実践や経過観察を行う。学年間の「タテのつながり」と、連携校との「ヨコのつながり」を拡充し、継続的な探究活動を実現する

③ 論文作成に必要な**事業協働機関の支援**

- ▷ 今年度、論文指導委員を設けた。今後は、特に事業協働機関の教員による論文作成に関する体制づくりを行う。
また、探究活動全般における事業協働機関との強化を図る

03

WWL事業の学校全体への波及効果

GI探究からグローバル探究へ

【現状の課題】

- GI探究 = GIクラス(1クラス)、グローバル探究 = 全クラス(学年全体) ※両科目とも学校設定科目
 - 学年全体対象となり担任がクラスを受け持つ形に ⇒ 担任間の指導の差を生じない工夫が必要
- 従来の食の4領域(社会文化、栄養、経済、環境)に基づく指導の問題点
 - 各タームごとに1～2か月かけて、4領域を学ぶ ⇒ 1つの探究にかける時間が少なく、探究に深まりが出ない
- 生徒の興味・関心が「食の問題」以外に広がる
 - 身近な課題から地球規模の課題にテーマが広がる ⇒ 「食の問題」から離れたテーマに関心が移ることも



【今後の運営、対応】

- ① 食のテーマを切り口にするが、その後のテーマ設定は生徒の興味・関心にゆだねる
- ② 生徒の探究テーマを担当の数(仮に12クラスとすれば、12人)で分割し、テーマごとに担当教員の指示を仰ぐ、「ゼミ形式とする」
- ③ 「テーマ設定」「中間発表」「探究プレゼンテーション」「成果物作成」といった、メルクマールとなる行事だけ設定し、それ以外は自由な活動を重んじる
- ④ 現在、探究活動は担当の校務分掌で行っているが、次年度以降「探究委員会」を立ち上げ、分掌をこえて探究に取り組む

04

他の国内外の学校・企業等組織など、ほかの組織との 連携に対する変化・効果

行事	連携先	対象学年	令和2年度 (予算なし)	令和3年度 (事業1年目)	令和4年度 (事業2年目)
GIフィールドワークbasic (グローバルキャンパス)	立命館アジア太平洋大学 (APU)	高校1年生	オンライン実施	オンライン実施	対面実施
GIフィールドワーadvanced (海外フィールドワーク)	・ Sultan Ibrahim girl's school(マレーシア) ・ University of Technology Malaysia (マレーシア)	高校2年生GI	—	国内研修に変更	海外での実施
アントレプレナーシップ 講座	SGインキュベート 株式会社	高校1・2年生GI	—	高校2年生(GI1期生) にて初実施	高校2年生 及び1年生 にて実施
GIプレゼンテーション	・ 中村学園大学 ・ 九州大学等	高校3年生GI	—	—	高校3年生にて初実施
食のサミット	・ 国連WFP ・ 京都先端科学大学附属 高等学校 ・ 高知西高等学校 ・ 中村学園三陽高等学校 ・ 84school (モンゴル) ・ Academic of Lyceum Westminster International University in Tashkent(ウズ ベキスタン)	高校全学年	・ ハイブリッド実施 (本校・三陽高校 以外オンライン参 加) ・ 高校2年生SGクラ ス	・ ハイブリッド実施 (本校・三陽高校以外 オンライン参加) ・ 高校2年生GIクラ スおよび高校生希望 者	・ ハイブリッド実施 (国内校対面参加、 海外校オンライン参 加) ・ 全校生徒でのポス ターセッション ・ WFP職員招聘予定 ※3/10・11開催予定
GSG(グローバル・シミュ レーション・ゲーミング) への参加	京都先端科学大学附属高校	高校2年生GI (代表生徒)	オンライン参加	オンライン参加	京都での参加
探究成果発表会への参加	高知県立高知国際高等学校	高校2年生GI (代表生徒)	—	オンライン参加	高知での参加 (※3月開催予定)



フィールドワークBasic (グローバルキャンパス)

- 事前・事後アンケートの結果、以下の項目で学年全体の約8~9割の生徒の意識が大幅に変化した。
 - ▶ 「生活の色々な場面で、他の国との関りが増えることや、外国についての知識・理解を深めることは自分の可能性が広がると思う」
 - ▶ 「外国の人々とのコミュニケーションに興味がある・一緒に学びたい」
 - ▶ 「グローバル化が進展することは、自国の発展や豊かさに繋がると思う」
- 「海外で勉強(留学)してみたい」という項目で、行事前は5割程度の生徒が肯定的だったが、行事後は6割に伸びた。
- 英語を使うことへの抵抗感、不安が目立ち「英語がもっとできるようになりたい」という生徒が多くいた。



フィールドワークadvanced (海外研修)

- 海外フィールドワークを通して、異文化理解や語学に対する意識が全体的に高まったことが、アンケート結果で明らかになった。
 - ▶ 「日本や外国の文化について、更に知りたくなった」
 - ▶ 「研修後、英語力をさらに伸ばしたいと思うようになった」
 - ▶ 「世界規模の課題について、さらに知りたい・調べたい」と思うようになった。
 - ▶ 「英語でプレゼンテーションをしたりディスカッションを行ったりしたことで、自分に自信をもつことができた」
 - ▶ 「出発前と比べて、クラスのチームワークが向上した」

アントレプレナーシップ講座

- 将来は漠然と起業してSDGsの促進につながる仕事をしたいおと思っていたので、起業家や注目企業などについてお話を聞いて、さらに起業に興味をもった。
- 商品の値付けやPRに関する発表に対して、ターゲットの設定やブランディングの仕方など様々な視点からアドバイスをいただけて勉強になった。
- 女子高にいることもあり、現在活躍している女性起業家についてもっと話を聞きたいと思った。また、どのような視点で投資をする企業を決めているのかについてさらに詳しく知りたくなった。

GIプレゼンテーション

- プレゼンテーションをする事で外部指導の先生方がグラフの作成の仕方や実験の方法についても指導してくださり、たくさんのアドバイスをくれたので、気づきが多く勉強になった。大学でも論文は作成するので、高校生のうちに論文を作成できた事はいい経験だと感じた。
- クラスメイトのプレゼンテーションを聴いて、1人1人が個性溢れる内容でとても面白く、自分にはない視点からの考え方が沢山あって良かった。1人1人のプレゼンのなかで、指導者からのアドバイスも自分に置き換えることで違う視点からの考えを生むことができ論文作成にも活かすことができた。





来年度以降の予定



来年度以降の予定

■ 国内、海外の提携校の拡充

「食のサミット」や「WWL報告会」等の探究成果発表の場に、現提携校はもとより新規の提携校も参加できるように提携先を開拓する

■ 生徒主体の行事運営

探究成果発表の行事は、生徒の手による実施が望ましい。将来的に生徒による実行委員を立ち上げ、生徒主体のイベントとして位置付けたい

■ 留学プログラムの改善

現在の渡航時期・期間、渡航場所、費用等の見直しをはかり、自走可能な海外プログラムを検討する

■ 大学教育の先取り履修

既存の中村学園大学・科目履修生制度対象年度の変更や、講座内容・数の再検討を行い、高大接続の強化に努める